氷川神社
社報　第十四号

武蔵一宮

新型コロナウイルス終息を目指して

四月に入ってからも依然として新型コロナウイルスの猛威は収まる事が無く、国内の感染患者は日ごとに増えていきました。政府は「緊急事態宣言」を発令、不要不急の外出の自粛や施設の利用制限を要請しました。当初は五月六日まで埼玉を含む七都府県が対象でしたが、収束の気配が見えない事から四月十六日には対象を全国に拡大、五月四日には期間を延長する事となりました。埼玉への緊急事態宣言が解除されたのは五月二十五日の事でした。

当社と致しましても月次祭や毎朝の日供祭にあわせ、コロナウイルス終息祈願祝詞を奏上し、事態が収束するよう祈りを捧げております。

行事に関しましては五月、六月の氏子総代会の中止や世話人研修旅行の中止、諸奉納行事の見合わせや延期などの影響がございました。

最も懸念しておりました八月一日の例祭につきましては、勅使御奉迎のための各町内の山車神輿の宮入を中止し、参列者を限定致します。また二日の神幸祭は、祭典を神職のみで行い、橋上祭は舞殿に於いて斎行を致します。

蛍の光に祈り重ねて

例年、氷川ほたるの会主催で開催されております氷川ほたる鑑賞会は、密集、密接を避ける事から鑑賞会は開催出来ませんでしたが、コロナウイルス終息への願いを込めて放生祭として行われました。六月六日午後六時半より祈祷殿にて、祝詞奏上、浦安の舞を奉奏した後、神池西の散策路から氷川ほたるの会会員によりゲンジボタル八百匹が放生されました。

明年は氷川の杜を幻想的に飛び交う無数の蛍を大勢の方と眺めたいものです。

育まれる命

時期は前後しますが五月下旬には、今年もカルガモの親子が神池に訪れました。

緊急事態宣言中の自粛疲れといった言葉も出る中で、神池の恵の中で、泳ぐ練習をするなど一生懸命に生きる姿はとても愛らしくほほえましい情景でした。

文明が発達しても疫神だけでなく、地震、台風など大いなる力の前には人々はあまりに無力です。それでも人々は力を合わせ、神々に祈りを捧げ、試練を乗り越えて参りました。

事態収束の暁には感謝の誠心を捧げて盛大に神祭りと神賑行事を行いたいと存じます。

祭事暦

当社では毎日の日供祭をはじめ年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穣と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

四月　一日　月次祭
　　三日　神武天皇祭遥拝式
　　五日～七日　鎮花祭
　　九日　埼玉縣護國神社例祭
　　十五日　献詠祭（兼題　鎮花祭）
　　二十九日　昭和祭

五月　一日　月次祭
　　併　新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭
　　五日　祝子祭
　　九日　御鎮座祭
　　十五日　献詠祭（兼題　粽）
　　二十一日　道饗祭

六月　一日　月次祭
　　五日　粽神事
　　十五日　献詠祭（兼題　麦秋）
　　三十日　大祓式

茅の輪設置期間
六月二十日～七月十二日

祝子祭

鎮花祭

神武天皇祭遥拝式

大祓式

粽神事

道饗祭　斎場祭

疫病除けの神事

四月五～七日には鎮花祭、五月二十一日には道饗祭を行いました。鎮花祭は、古来桜の花びらが散るとともに疫病が流行すると考えられていたため、花の命安かれと、健康と疫病退散を祈願致します。道饗祭の本殿祭では疫病が蔓延しないよう八衢比古神（やちまたひこのかみ）、八衢比売神（やちまたひめのかみ）、久那斗神（くなどのかみ）の協力を仰ぎつつ、氷川の大神さまに祈願します。本殿祭に続く斎場祭では八衢比古神、八衢比売神、久那斗神に祈りを捧げます。八衢の神や久那斗の神というのは道祖神の古名で、村などの共同体では道祖神は村境や橋のたもとなどで祀られました。こういった所は現世と他界とを隔てる場所であり、他界から邪神や疫病などが侵入する場所と捉えられたため、道祖神を祀り塞ごうと考えられたのです。

夏越大祓の茅の輪

茅の輪の由来は『備後国風土記』に、昔、武塔（むとう）の神が南海の神の娘に求婚しようと出かけたところ、途中で夜となり将来という兄弟に宿を頼みましたが、裕福な弟の巨旦将来（こたんしょうらい）は断り、貧しい兄の蘇民将来（そみんしょうらい）は歓待したため後年、武塔の神は巨旦一族を滅ぼし、蘇民一族を疫病から守るため茅の輪の法を教えたことに由来致します。この時、武塔の神は「自分は須佐之男の神なり」と伝えております。

社頭往来

大宮剣道連盟奉納演武

四月五日午後二時、大宮剣道連盟中村好一会長他演武者が正式参拝を行いました。昭和十一年高野佐三郎先生ご臨席のもと、境内で実施してきた剣道大会が大宮武道館へと変遷して来ました。本年は、打太刀教士七段作間健一氏、仕太刀教士七段奥山廣志氏による日本剣道形が奉納されました。

牡丹奉納と活け花献花

四月十七日から十九日まで氷川献花会の岩波理豊・川嶋理智先生(古流松藤会)、小林華侊・高橋典花先生(桂古流)に牡丹を活けて頂きました。牡丹は昨年に続き本年も有限会社大成造園様に奉納頂きました。

夏の特別紙朱印

五月十五日より夏限定の特別紙朱印「新緑」の授与を開始致しました。

篝火台奉納

六月一日午後一時、株式会社マスセイ様に大湯祭等で使用する篝火台を奉納頂き、増田勝巳様以下五名参列のもと奉納奉告参拝を行いました。

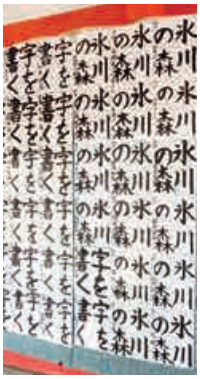
大宮茅の輪飾りプロジェクト

六月十七日よりチーム大宮有志の九団体と当社で新型コロナウイルスの早期終息を願って、各施設に同様の茅の輪を一斉に飾る大宮茅の輪飾りプロジェクトを行いました。

(参加施設)アルシェ大宮、大宮アルディージャ、大宮駅、大宮高島屋、大宮西口DOMショッピングセンター、そごう大宮店、パレスホテル大宮、まるまるひがしにほん東日本連携センター、ルミネ大宮(協力)公益社団法人さいたま観光国際協会

書元会書道廻廊展示

六月二十七日から七月一日まで例年、大祓式に合わせ展示される書元会による書道の廻廊展示が行われました。今回は小学一年生から中学三年生までの会員の作品で「いけ」、「ねがい」、「かみさま」、「赤いはし」、「字を書く」、「氷川の森」、「神社境内」、「書芸墨美」が兼題となりました。



鳥居奉納奉告祭

稲荷神社にて

潜り初め

鳥居修祓

4月25日　池田幸美様

4月6日　沖田裕司様

4月1日　(株)グランデ様

芳名札

稲荷神社への鳥居、幟旗奉納に関するお問合せは神札所、社務所までお願い致します。
（八時半～十六時半）

○鳥居
初穂料　二十万円
設置期間　約十年
※場所の指定は出来ません
芳名札の願意は一基につき一願種です

○幟旗
初穂料　一万円
設置期間　約一年
※場所の指定は出来ません

鳥居の奉納を頂きました方には稲荷神社札の進呈の他、二月に行われます初午祭にご案内致します。

稲荷神社札

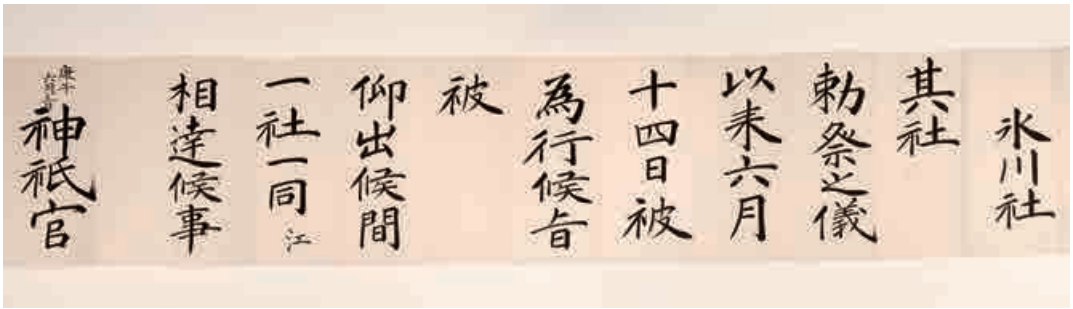
天津神社にて

四月十二日午後一時、天津神社にて須田美和子様参列のもと鳥居奉納奉告祭を行いました。

夏の祭典　例祭

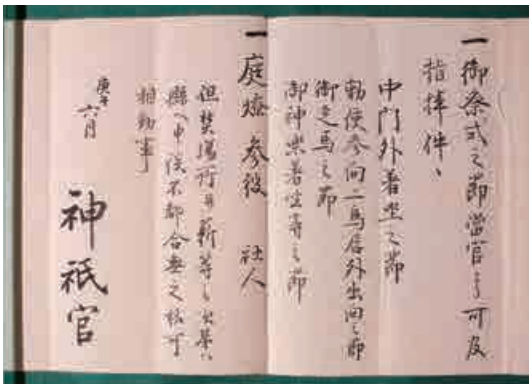
東游

勅使　参進


氷川社
其社
勅祭之儀
以来六月
十四日被
為行候旨
被
仰出候間
一社一同江
相達候事
慶応四
神祇官

八月一日に勅使の参向を頂き厳粛に行われる例祭。現在では勅使は幣帛を捧げ御祭文を奏上しておりますが、もともと幣帛を捧げる役は奉幣使、宣命を宣る役は宣命使という別々の役でした。宣命とは天皇の命を宣るという意味で明治六年に御祭文と改称されております。宣命は宣命紙という用紙に宣命体という文体で記され、通常は黄麻紙が用いられますが、伊勢の神宮では縹紙、賀茂神社では紅紙が用いられております。

明治元年に発せられた氷川神社御親祭の詔では「年ごとに奉幣使を遣わし」とありますので、明治二年には綾小路有良が奉幣使として参向されました。正式に例祭が勅祭と定められたのは、上掲の神祇官達書（勅祭執行）によるもので、これにより例祭は勅祭「氷川祭」として整えられ、明治三年には副島種臣が宣命使、梅溪通善が奉幣使として参向されました。旧暦六月十四日に行われていた例祭は、明治八年に新暦を取り入れ八月一日に変更されております。


一御祭式之御当官ニ可及
指揮件々
中門外着坐之節
勅使参向ニ鳥居外出迎之節
御之馬之節
御神楽着坐等之節
一庭燎　参役　社人
但其場行ヲ新等し女装
縣ヘ申候不都合無之様可
相勅事
慶応
六月
神祇官

御神楽・走馬と東游

当初、当社の勅祭では男山八幡宮（現石清水八幡宮）から御神楽を、賀茂神社から走馬を例として倣い奉納されていました。御神楽とは宮中などで奏される神楽で里神楽とは異なるものです。走馬とは文字通り、馬が全力で疾走する姿を奉納します。しかし御神楽は朝夕に行われる事が参向者の負担となる事などから東游に代わり、一時中断しましたが、明治二十五年に再興、現在に至っています。

日本書紀編纂一三〇〇年③

おみくじ読み解き（複数の伝承を組み合わせた意訳です）

当社のおみくじは一番から五十番まであり古事記、日本書紀の伝承から事象や神名などを題としております。神名はこの解説では日本書紀での表記を使用しております。

八岐大蛇退治（二十五番、二十六番）

高天原から出雲の国の簸之川上に降った素戔嗚は、泣き声を聞き、その方に行くと脚摩乳、手摩乳という年老いた夫婦と奇稲田姫という娘が泣いており、その理由を素戔嗚に話しました。「もともと私たちには八人の娘がおりましたが、毎年一人ずつ八岐大蛇に食べられ、今年最後の一人が食べられそうになっているのです。」そこで素戔嗚は、強い酒を用意させ、それを大蛇に飲ませてから退治する事にしました（二十五番　大蛇退治）。大蛇の体を切っていくと尾の中から大変立派な剣が出てきました。これが三種の神器に数えられる草薙の剣です。素戔嗚は草薙の剣を天神に献上すると出雲の須賀というところに行きました。そこで素戔嗚は「八雲たつ　出雲八重垣　妻籠みに　八重垣作る　その八重垣を」と和歌を詠み、宮殿を建てたのでした（二十六番　須賀宮）。誕生した際には母神を恋しがったりした素戔嗚でしたが、出雲の地に降りてからは成長し英雄神となったのでした。

八醞酒という幾度も醸した芳醇なお酒が造られました。

十握劔で八岐大蛇を退治する素戔嗚尊。

資料提供：埼玉県神社庁　絵：笠原正夫氏

素戔嗚と大己貴（二十七番から三十一番）

素戔嗚が自らの体毛を抜き、吹くと杉や桧、樟などさまざまな樹木となりました。素戔嗚の子の五十猛らは様々な場所に蒔き施して青山のように緑豊かな国土としたのでした（二十七番　木種蒔）。この後、素戔嗚は根国へ、五十猛は紀伊国へと向かいました。

素戔嗚の子孫の大己貴は稲羽国の八上比売に求婚しようとする兄弟神たちの荷物持ちをさせられていました。道すがら傷ついた兎がおり、意地の悪い兄弟神たちは偽りの治療法を教え、大己貴は正しい治療法を教えたところ、兎は八上比売が結ばれるのは大己貴と予言し、その通りになりました。しかし大己貴は嫉妬した兄弟神たちに命を狙われるようになり、素戔嗚のいる根国へ逃れたのでした（二十八番　根堅洲国）。素戔嗚のもとに行くと娘の須勢理毘売と大己貴はお互いに一目惚れをしてしまいました。素戔嗚は大己貴にさまざまな試練を与えました。蛇のいる部屋、蜂や百足のいる部屋、鏑矢を野に射ち、それを取ってこさせる試練などです（二十九番　鳴鏑）。それらの試練に打ち勝った大己貴は素戔嗚が寝ている間に、須勢理毘売と素戔嗚の神宝である生大刀、生弓矢、天沼琴を持ってもとの国へと還り、その神宝で兄弟神たちを追い払いました（三十番　生太刀弓矢）。

大己貴は大国主神、宇都志国玉神、八千矛神など様々な名がありますが、これはそのご神徳の高さを表したものと考えられています。また須勢理毘売や高志国の沼河比売など多くの妻を持ち、八上比売との間には木俣神（御井神）、胸形の奥津宮の多紀理毘売との間には阿遲鉏高日子根神と高比売（下光比売）、神屋楯比売との間には事代主神、鳥耳神との間には鳥鳴海神など、たくさんの子を成した神さまとしても知られています（三十一番　御妻問）。

※素戔嗚と大己貴、大己貴と少彦名の神話は日本書紀にはあまり記載が無いため古事記の内容となっています。

①**「明治天皇陛下大嘗會御饌埋納地」**明治天皇の大嘗祭記念碑です。

②**「力石」**一貫は3・75kg。「四拾五貫（168・75kg）」、「五拾六貫（210kg）」、「六拾貫目余（225kg以上）」の三個は刻銘が共通のため、一組と思われます。寛政八年（1796）のもの。「八雲石」は天保十三年（1842）石屋源太郎奉納。「海外銘顕石」は明治四年のもの。「武蔵國一宮四拾三貫目（161・25kg）」。「五拾メ目餘（187・5kg以上）」。

③**「瘞花碑」**瘞はエイと発音し、地中に埋める意で花塚の事。神前に献花を続けた片柳（現さいたま市見沼区）の生花師匠、守屋巌松斎法眼貞一鵬の碑で嘉永三年（1851）とありますが東角井家日記によると嘉永四年に建立との事です。

④**「神祠碑」**明治十三年の社殿造営記念碑です。有栖川一品幟仁親王篆額、白根多助県令撰文、平山省斎宮司書、石工は東京の村上瀧次郎です。寄進者名には宮内省の他、皇族有栖川宮、山階宮、東伏見宮、伏見宮、北白川宮、閑院宮、華頂宮など、傍らの二基は一般の方の芳名録の石碑です。

⑤**「明治天皇御親祭百五十年祭記念碑」**平成二十九年に斎行された明治天皇御親祭百五十年祭の記念碑です。記念事業の一環として奉賛者の芳名碑の他、百年祭の折に明治天皇の第七皇女である北白川房子様より奉納された歌の歌碑も建立されました。

大宮公園口の社号標と石鳥居の柱

大正元年九月に建立された石鳥居と大正六年十月に建立された社号標です。現在の二の鳥居が明治神宮より奉納される事になり、二の鳥居であった石鳥居は大宮公園口に移設されました。東日本大震災で亀裂が入ったため、柱のみ残し上部は取り外しています。

宗像神社前の「洗心」の銘の水盥（みずだらい）は大正十四年三月に大宮辨天講（べんてんこう）より奉納されたものです。講元は神社近くの料亭一の家の小田ハナさんです。反対側に立つ石碑は記録がなく、表面も崩れており詳しい事がわかりません。

猿田彦大神・金毘羅大権現

道開きの神として知られる猿田彦、江戸時代に広く庶民に信仰された金毘羅さんですが、境内で出土した二基の祠について詳しい事はわかりません。

⑥**「縣令櫻碑」**埼玉県令の吉田清英が県大書記官の時に自宅の庭の桜を献じた事を称え、明治十五年に建立された碑。撰文、篆額を行った平山省斎は明治九年から十五年まで氷川神社宮司を務めました。

⑦**「楼門前手水舎」**昭和九年秋に埼玉縣下中等學校小學校職員生徒児童より奉納の手水舎です。

⑧**「寄進神橋改造」**昭和十八年、川口市永瀬平五郎の寄進です。

⑨**「大鳥居敷石寄附録」**大正二年十二月建立された寄附録で、石工は中村群鳳です。

⑩**「石鳥居敷石寄附録」**大正二年十二月建立された寄附録で、賛助員は大隈重信、千家尊福、澁澤榮一他、石工は中村群鳳です。

⑪**「石燈籠」**明治三十三年の鎮座行幸紀念奉祝祭に際し、当時東京の代表的な薬屋などで組織された「薬業懇話会」より奉納されました。

⑫**「庖仙碑」**萬屋三代目佐藤長左衛門の発起により玉垣寄進を記念し、魚鳥の慰霊と感謝を捧げる為に建立されました。

⑬**「神楽殿改築寄附人名録」**明治の御代の寄附人名録です。記年銘はありません。

⑭**「日露戦争勝利奉告祭記念碑」**県知事の大久保利武が奉告祭に参列し、松梅各一株を植えた事を記念し、明治三十八年に建てられました。

⑮**「稲荷神社前手水舎」**明治三十一年に東京の酒井八右衛門寄進の御水盥です。

境内に植樹を致しました

宗像神社　紅葉

神橋南　榊

社務所　菊の間前　伽羅

コナラ・クヌギ奉納

有限会社大成造園様より参道にコナラとクヌギの奉納を頂きました。

天津神社　マテバシイ

宗像神社　ツツジ

営繕工事

四月二十八日に舞殿廻りの敷石敷設工事が完了致しました。

六月の奉納献華

古流松藤会	岩波理豊		
池坊	草谷智花	桂古流	高橋典花
草月流	沖山草俊	草月流	竹下尚峰
桂古流	小林華侊	正風流一光会	桐生一光
古流松藤会	川嶋理智	春草流	栗原春彩

※四月、五月は社会情勢を鑑みご遠慮頂きました。

正式参拝及び諸会議

（敬称略）

四月　五日　大宮剣道連盟
十四日　北足立総代会役員会
二十一日　埼玉県神道青年会総会
五月十五日　氏子青年会監査会
十八日　監査会
二十五日　責任役員会
六月　一日　株式会社マスセイ
二日　氏子青年会役員会
十一日　大宮茅の輪飾りプロジェクト

参道清掃奉仕御礼

みずほ証券株式会社様、阿含宗埼玉道場様に参道の清掃活動を頂きました。謹んで御篤志に感謝申し上げます。

コロナウイルス対策奉納御礼

此の度のコロナウイルス感染防止対策にあたり奉納を頂きました。謹んで御篤志に感謝申し上げます。（敬称略順不同）

空気清浄機　㈱アンジェラ　辻村浩司
マスク　埼京東和薬品㈱
みどり建設
㈱アルシェ　中島祥雄
㈱丸井紙店
消毒液　埼京東和薬品㈱
本郷登実江
㈱美多加堂
㈱ダスキン
フェイスシールド　㈱長谷川製作所

氷川丸 九十周年

航海の記録

氷川丸はシアトル航路の貨客船として一九三〇年から約十一年間で延べ一万人が乗船しました。その中には大正天皇の第二皇子である秩父宮ご夫妻や世界の喜劇王として知られるチャーリー・チャップリン、講道館の創始者で柔道の父といわれる嘉納治五郎もおりました。豪華な食事と行き届いたサービスでの旅は外国人にも好評だったようです。

一等食堂

一等社交室

内装は竣工当時の姿に近い形に復原されています。

歴代の船長以下乗組員は氷川神社に参拝するのが習わしで、海外からの珍しい品々も献納され、安全祈願祭が行われておりました。

戦時は軍に徴用され、改装されて病院船となり、三年半の間に二十四回の航海で、三万人にのぼる傷病兵を戦地から収容し、多くの命を救いました。

終戦後は復員船として約一年かけて南太平洋から二万人近くの復員兵を輸送、引揚船として半年かけて約八千人の一般邦人の輸送にもたずさわりました。

その後は、北海道航路につき、物資輸送の役を担い、戦後の食糧難を支えました。

一九五三年シアトル航路に復帰後、七年間で約一万五千人の船客を運びましたが、船齢三十年という老朽化に加えて飛行機の普及などにより、一九六〇年に引退することになりました。

港のシンボルとして現在へ

一九六一年に横浜山下公園前に係留され、海の教室ユースホステルとして開業、その後、観光船として、水族館やレストラン、ビアガーデンなどの事業を展開、宿泊業務は一九七三年まで続き、宿泊者総数は五十五万人に達しました。また、船上結婚式では多くのカップルが誕生しました。

二〇〇八年四月には「日本郵船氷川丸」としてリニューアルオープンされましたが、その際には当社より二名の神職が出向し神事を執り行いました。二〇一六年には国の重要文化財に指定、二〇一九年にはリニューアルオープン以来、入館者累計三百万人を達成しました。

重要文化財指定を表す横断幕

百歳を目指して

氷川丸は毎年一月から二月にかけて、船体の外板塗装が行われています。また、昨年はナビゲーションブリッジ工事を行うなど、船体の保守保全に努めています。年間三十万人が訪れる氷川の大神様の名をいただく氷川丸、日本の近代化を伝える産業遺産として悠久に伝えたいものです。

ファンネル塗装の様子

ナビゲーションブリッジ改修工事の様子

日本郵船氷川丸　〒231-0023　神奈川県横浜市中区山下町山下公園地先
開館時間10：00~17：00　[最終入館16：30まで]　休館日　月曜日（※祝日の場合は開館、翌平日休館）

神棚 神具のご案内

こちらに掲載の神棚の他、お供えに用いる神具なども宮善商店で取り扱っております。邸内社や祖霊舎、神棚の設置の相談なども承ります。

※二の鳥居十字路は車の右折禁止です。
徒歩では氷川神社より約８分です。

第十五号は十月十五日発行予定です

ゆうげんがいしゃみやぜんしょうてん
有限会社宮善商店
火曜定休
【HP】http://www.miyazenshouten.com/
さいたま市大宮区高鼻町１-９９-３
TEL：048-642-7178

七五三祈祷は年間通して行っております。千歳飴など記念品の授与は９月１日からです。
貸衣裳、写真撮影、七五三セットプラン等はホームページをご覧下さい。

発行　令和２年７月15日　**発行所**　氷川神社社務所
写真協力　日本郵船氷川丸　宮野信昭　中村写真館　**印刷所**　株式会社 秀飯舎
さいたま市大宮区高鼻町１-407　電話 048-641-0137　http://www.musashiichinomiya-hikawa.or.jp/